

19. モモ黒斑病がまん延しやすい園地の気温・湿度の特徴（情報）			
[要約] モモ黒斑病がまん延しやすい園地は近隣の未発生園地に比べて気温がやや低く、 <u>高湿度</u> の環境である。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

モモ黒斑病は空気伝染性の難防除病害で県内へのまん延が懸念されており、早期発見が極めて重要である。現地では本病が常発する園地もあれば、その近隣でも未発生の園地がある。発生園地は山際や窪地で風通しが悪く、近くにため池などがある場合が多く、園地の環境に特徴がある。そこで、発生園地の温度、湿度を未発生園地と比較して、本病がまん延しやすい園地の特徴を明らかにする。

## [成果の概要・特徴]

1. モモ黒斑病の発生園地と近隣の未発生園地 3 地点（O、S、K 地点）選定し、平成 13 年 4～9 月の気温、湿度を記録した。
2. 4～9 月の平均気温は 3 地点とも、発生園地が未発生園地に比べて 0.2～1.8℃低かった（図 1）。一方、平均湿度は、2 地点では発生園地が 5～6%程度、他の 1 地点では 3～4%程度高かった。また、一日当たりの湿度 95%以上の時間は、3 地点ともにそれぞれ発生園地が未発生園地に比べて 1.2～1.8 倍長かった（図 2）。

以上の結果から、本病がまん延しやすい園地は、近隣の未発生園地に比べて気温がやや低く、湿度が高いという特徴がある。したがって、山際や窪地で風通しが悪く、近くにため池などがあるモモ園地では本病の発生を警戒しておく必要がある。

## [成果の活用面・留意点]

1. 本病に弱い「清水白桃」を栽培している山際や窪地の園地では、特に本病の早期発見に努める。

[具体的データ]

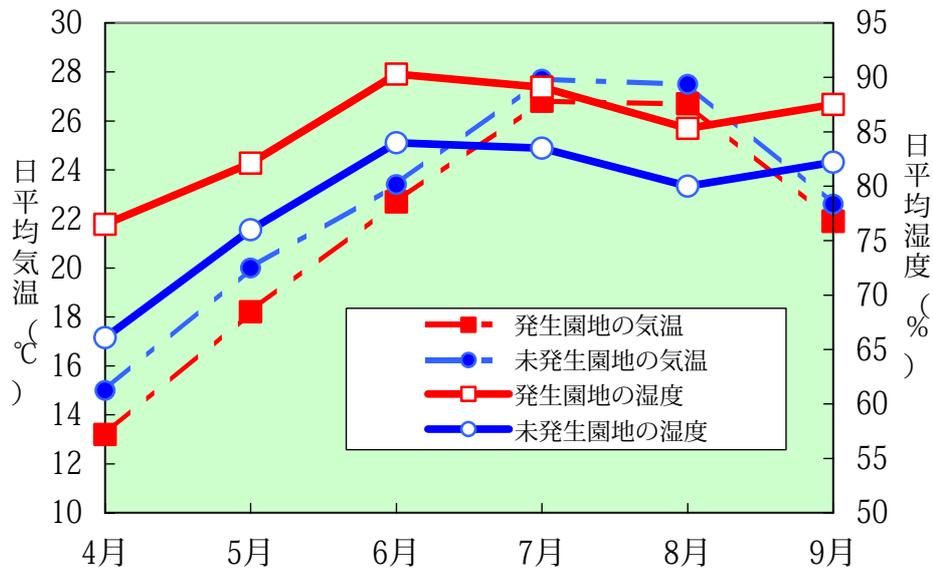


図1 発生園地、未発生園地の温度・湿度 (平成13年)

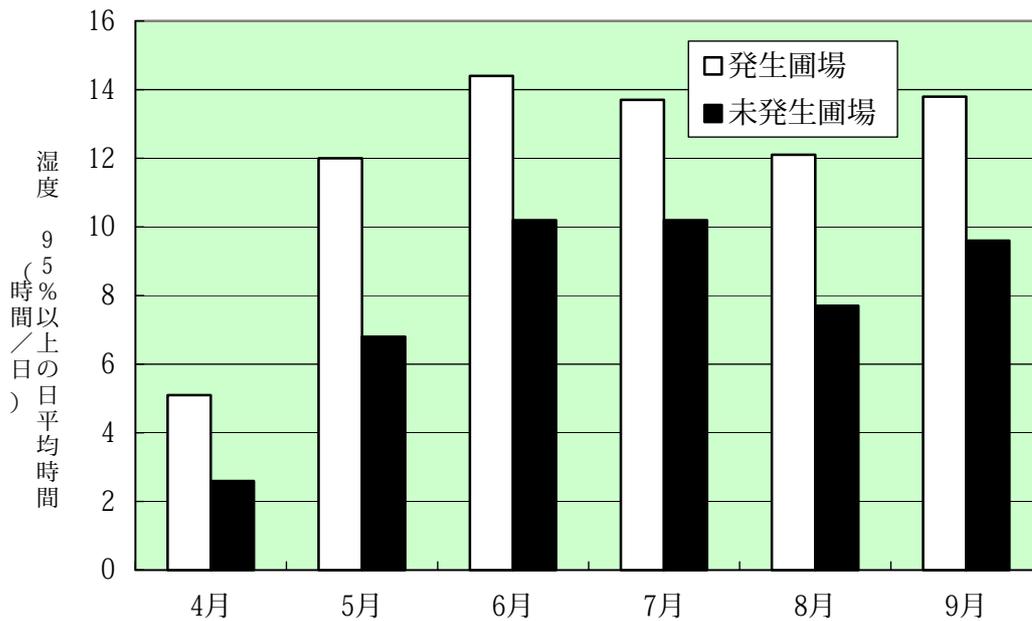


図2 発生園地、未発生園地における湿度95%以上の日平均時間 (平成13年)

[その他]

試験研究課題・事業名：モモ黒斑病の多発要因の解明と総合防除法の開発  
 予算区分：国補  
 研究期間：平成12～14年度  
 関連情報等：なし